

齊藤一郎と

アポロ室内管弦楽団

プレミアム・クラシックコンサート Vol.2



チェロ
松谷壮一郎



ピアノ
大宅さおり



箏
藤重奈那子



指揮
齊藤一郎

©Doko Nakamura

齊藤一郎が送る夢のプレミアム・クラシックコンサート
待望の第2弾!

ハイドン：チェロ協奏曲第1番 ハ長調 Hob. VIIIb:1

Franz Joseph Haydn : Cello Concerto No. 1 in C Major, Hob.VIIIb:1

木下正道：新作

Masamichi Kinoshita : Commissioned Work

佐原詩音：箏とピアノ、弦楽オーケストラのための「コナコナ蝶々」

Shion Sahara : Butterfly Scales

モーツァルト：交響曲第29番 イ長調 K. 201

Wolfgang Amadeus Mozart : Symphony No. 29 in A Major, K. 201

11月28日(月)

2022年

大野市文化会館 大ホール

18:45開演 (17:45開場)

【チケット料金】全指定席 5,000円

【お問合せ】SK art&music TEL : 0779-69-9505 Email : sk.art.and.music@gmail.com

【チケットお取扱い】SK art&music、ショッピングモールVIO、芦原楽器

【主催】SK art & music 【後援】大野市

ARTS2
ARTS for the future! ▶ 2

齊藤 一郎 と アポロ室内管弦楽団

齊藤一郎が送る夢のプレミアム・クラシックコンサート 待望の第2弾。東京、大阪、京都のプロオーケストラ首席奏者がここ大野市に結集する。大野市出身のチェリスト・松谷壮一郎による渾身のハイドン「チェロ協奏曲第1番」と、同じく大野出身の作曲家・木下正道によるピアノとオーケストラのための新作初演は必聴。そして、ベルギーブリュッセルを拠点に、帰国後も国内外で活躍するピアニスト・大宅さおりと、皇居内桃華楽堂にて御前演奏を務めた箏奏者・藤重奈那子が、作曲家・佐原詩音による箏とピアノ、弦楽オーケストラのための「コナコナ蝶々」を届ける。



©Doko Nakamura

齊藤 一郎 (指揮者)

福井県大野市出身。東京学芸大学、及び東京藝術大学音楽学部指揮科卒業。指揮を伊藤栄一、遠藤雅古、岩城宏之、若杉弘、湯浅勇治、佐渡裕、パブレ・デシュバイ、レオポルド・ハーガー、エルビン・アツツェルの各氏に師事。在学中に安宅賞受賞。1998年より文化庁新進芸術家海外研修員としてウィーンで研鑽を積む。帰国後の2000年6月～2004年3月 NHK交響楽団アシスタントコンダクターを務め、この間、サヴァリッシュ、プロムシュテット、スヴェトラーノフ各氏らの薫陶を受ける。1997年大阪センチュリー交響楽団(現・日本センチュリー交響楽団)を指揮してデビュー。2002年にはN響を指揮、2003年関西フィルハーモニー管弦楽団で定期公演に初登場。これまでに、読売日本交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、九州交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、広島交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、京都市交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、札幌交響楽団、東京佼成ウインドオーケストラなど国内主要オーケストラに客演を重ねている。海外においても、セグト響(ハンガリー)、モラヴィア・フィル(チェコ)、オラディア・フィル(ルーマニア)に客演した他、スロヴァキア・フィル定期公演(2005年)、現地でラジオ放送されたパルドゥビツェ室内管弦楽団(チェコ)定期公演(2007年)などに出演。2009年4月～2014年3月セントラル愛知交響楽団常任指揮者。2014年4月より同団首席客演指揮者。2014年4月～2019年9月京都フィルハーモニー室内合奏団音楽監督。レパートリーは、古典作品はもとより、芥川也寸志、黛敏郎、伊福部昭、松村禎三など日本の現代音楽を切り拓いてきた巨匠たちの作品、野平一郎、山本和智ら同世代の作曲家たちの作品、海外の現代作品、映画音楽やポップスまで

幅広い。特に邦人作品への積極的な取り組みは高い評価を得ており、2014年には第9回名古屋音楽ペンクラブ賞を受賞、齊藤一郎がプログラミングならびに指揮をした2016年4月の京都フィルハーモニー室内合奏団第203回定期演奏会が第15回佐川吉男音楽賞奨励賞を受賞した。



松谷 壮一郎 (チェロ)

大野市出身。スズキ・メソッドにて3歳よりチェロを始める。第73回全日本学生音楽コンクールチェロ部門高校の部名古屋大会第1位、全国大会第3位。第75回全日本学生音楽コンクールチェロ部門大学の部東京大会第2位、全国大会第2位並びに横浜市民賞。第71回福井県音楽コンクール県知事賞。第6回さかい九頭竜音楽コンクール坂井市長賞。第31回日本クラシック音楽コンクール最高位。福井県文化振興事業団主催、若い芽コンサート2018に出演。福井ジュニア弦楽アンサンブル(福井県文化振興事業団主宰)を受講。上山音楽祭参加。2022年度青山音楽財団奨学生。サントリー室内楽アカデミー第7期フェロー。池田沙和子、松隈千代恵、菊田雅治、中木健二の各氏に師事。福井県立大野高等学校を経て現在東京藝術大学音楽学部器楽科3年在学中。



©長谷川和俊

大宅 さおり (ピアノ)

桐朋女子高等学校音楽科、桐朋学園大学音楽学部ピアノ専攻卒業。ブリュッセル王立音楽院(Koninklijk Conservatorium Brussel)修士課程を首席で修了。ピアノ、室内楽、現代音楽においてグランドディスティンクション賞を受賞。ベルギー政府給費留学生。その後同音楽院ピアノ科プロフェッサーアシスタントとして後進の指導にあたる。兄の大宅裕と OYA PIANO DUO他、Ensemble champ d'Action、Ensemble Musiques Nouvelles、Prometheus Ensemble(解散)、Royal Flanders Opera等で10年間ベルギーを拠点にヨーロッパで活動。現在はソリスト、室内楽奏者として日本各地での音楽祭やコンサート、学校訪問アウトリーチなどで精力的な演奏活動を展開し、海外の音楽祭にも定期的に招聘されている。これまでにソ CD「SAORI OYA PLAYS BRAHMS」、「BEETHOVEN PIANO SONATAS」(サウンドアリアレコード)をリリース。平成27年度福井県文化奨励賞受賞。オフィシャルサイト <www.saorioya.net/>



藤重 奈那子 (箏)

大阪府出身。10歳より箏、12歳より地歌三絃を深海さとみに師事。東京藝術大学音楽学部邦楽科生田流箏曲専攻を卒業、今春に同大学院音楽研究科修士課程を修了。大学卒業時には皇居内桃華楽堂にて御前演奏を務め、修了演奏会では学内有志オーケストラと《志越調箏協奏曲》を共演。現在、様々な企画運営を積極的に取り組み、東京と大阪を中心に演奏活動や指導を行う。全国小・中学生箏曲コンクール【小学生の部】銀賞、K邦楽コンクール【現代部門一般】特別優秀賞(第1位)、宮城道雄記念コンクール【一般の部】第3位など他多数受賞。宮城社教師。箏曲宮城会、同声会、森の会、深海邦楽会各会員。一般社団法人地域創造公共ホール邦楽活性化事業登録演奏家。和楽器集団「鳳雛」、和楽器オーケストラ「あいおい」メンバー。



木下 正道 (作曲)

1969年福井県大野市生まれ。吹奏楽とハードロックの経験の後、東京学芸大学で音楽を学ぶ。2001年度武満徹作曲賞選外佳作、平成14年度文化庁舞台芸術創作奨励賞、2003年現音楽新人賞入選。現在は様々な団体や個人からの委嘱や共同企画による作曲、優れた演奏家の協力のもとでの演奏会の企画、通常とは異なる方法で使用する電気機器による即興演奏、の三つの柱で活動を展開する。また多くの先鋭的な若手作曲家、演奏家たちによる企画に招聘されている。



佐原 詩音 (作曲)

1981年大阪府生まれ、石川県金沢市育ち。関西学院大学卒業後、東京藝術大学音楽学部作曲科に再進学。コンサートプラン・クセジュ代表。2018年から作曲個展を毎年開催。近年は物語性のある作品に取り組んでおり、作品は調性の有無に拘らず、色彩豊かで力強いものが多い。現代音楽や即興を取り入れたピアノ・ソルフェージュ教室、作曲理論など後進の指導や楽譜制作、楽曲分析などの執筆も行っている。日本芸術専門学校・ピアノ非常勤講師。理数系塾講師。

アポロ室内管弦楽団

指揮者 齊藤一郎が過去に共演した大阪フィルハーモニー交響楽団と京都市交響楽団の首席奏者を中心に結成した管弦楽団。レパートリーはクラシック音楽の作品はもとより、近現代の作品まで幅広い。